

第3回持続可能な平和と開発に関するアスワン・フォーラムにおける

新美政府代表ステートメント

日本政府を代表して、第3回アスワン持続可能な平和と開発のためのフォーラムの開催に心から祝意を申し上げます。

新型コロナ、ロシアによるウクライナ侵略がもたらす食料・エネルギー価格の高騰、気候変動等、多岐にわたる課題がアフリカの安定を脅かす中で、今次会合のテーマ「多重的リスクと気候変動に対する脆弱さの時代におけるアフリカ：平和で強靱かつ持続可能な大陸への道筋」は、時宜にかなったテーマであります。

日本はアスワン・フォーラムに第1回から継続して参加しており、本フォーラムの取組を重視しています。本フォーラムが目指す平和と安定に向けたアフリカ自身の取組の後押しは、まさに日本のTICADを通じた取組と軌を一にしています。

本日は本フォーラムのテーマを踏まえ、3点お話しします。

まず第一に気候変動への対応及び紛争予防・平和構築の重要性です。

本年11月にはCOP27がエジプトで開催が予定される中、気候変動及び地域の平和と安定におけるエジプトのリーダーシップに敬意を表します。

気候変動はアフリカの平和と安定に大きな影響を及ぼしている課題の一つです。持続可能な平和を実現するためには、気候変動問題への対応が重要です。同時に、紛争予防・平和構築に取り組み、地域の強靱性を高めることも重要となります。

日本は、カメルーンやコンゴ民主共和国等のコンゴ盆地の持続的森林管理能力の強化支援プロジェクト等、気候変動対策に寄与するとともに地域の安定化にも繋がる取組も行っています。

また、日本は、アフリカ自身の紛争予防・平和構築分野での能力構築のために、エジプトCCCCPAに対する支援の約13百万ドルを始め、これまでアフリカ15カ国のPKO訓練センターに対して総額約112百万ドル、講師延べ63名を派遣してきました。

日本は本年、リプタコ・グルマ地域の安定化支援として約630万ドルの拠出を決定しています。さらに、平和・安全保障分野でのAUの活動を支援するため、日本は1996年からAU平和基金に継続的に拠出し、アフリカの紛争予防、紛争解決に貢献しています。

次に、持続可能な、かつ安定した民主主義制度に向けたアフリカ自身の取組についてです。

5月末にマラボで開催された「非憲法的政権交代及びテロに関する会合」において議論された持続可能なかつ安定した民主主義制度に向けたアフリカ自身による取組を高く評価します。アフリカ、そして国際社会の平和と安定の維持・強化のためには、高潔なガバナンスの規則及び原則が不可欠であることを改めて認識しました。

日本は、NAPSAの理念の下、紛争の根本原因への対処を支援してきました。アフリカ自身が取り組む非憲法的政権交代への対応や民主主義の定着を、透明・公正な選挙のための支援、制度構築・ガバナンス強化の取組を通じて引き続き後押ししていく考えです。

最後に直近の課題である食料危機についてです。

ロシアによるウクライナ侵略がもたらす食料・エネルギー価格の高騰がアフリカ開発に及ぼす影響を深く懸念しております。特に食料危機は地域の不安定化の要因ともなり得る喫緊の課題です。日本は、長年に亘り、食糧援助による緊急支援と、農業の生産能力向上支援といった中長期的な支援を実施してきました。

国際社会が秩序の挑戦にさらされる中、今こそ、ルールに基づく自由で開かれた国際秩序が重要であることを強調します。日本は、TICAD6で提唱した「自由で開かれたインド太平洋」のビジョンの下、アジア・アフリカ地域、ひいては世界の平和と繁栄を実現することを目指し、引き続きアフリカ諸国と協力していく考えです。

本年8月にはTICAD8がチュニジアで開催されます。日本はTICAD8を通じ、アフリカの平和と安定に引き続き貢献していく考えです。

(了)